

## 鶴見区区政会議 平成29年度第2回地域コミュニティ・保健福祉部会

### 1 日時

平成29年9月22日（金） 19時00分～20時31分

### 2 場所

鶴見区役所 4階 403・404会議室

### 3 出席者

（委員）

久木部会長、早野副部会長、笹原委員、田中（潔）委員、正脇委員、吉江委員

（区役所）

野村副区長、嶋原保健福祉課長、小川地域活動支援課長、

河本保健福祉課福祉担当課長代理、岡田保健福祉課担当係長、

大田保健福祉課担当係長、金森保健副主幹、浅田保健福祉課保健担当課長代理、

小谷地域活動支援課担当係長

### 4 議題

1. 平成30年度鶴見区の取組みの方向性について

### 5 議事

開会 19時00分

○岡田保健福祉課担当係長 ただいまから鶴見区区政会議平成29年度第2回地域コミュニティ・保健福祉部会を開会いたします。

私は本日の司会を務めさせていただきます保健福祉課担当係長の岡田でございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、早速ですがこれより議事に入りたいと思いますので、ここからの議事進行を久木部会長にお願いしたいと思ひます。

部会長、よろしくお願ひいたします。

○久木部会長　それでは皆さん、改めましてこんばんは。大変蒸し暑い、しかも雨の中、ご足労いただきまして本当にありがとうございます。

この前、皆さんとお会いしたなと思ったら、もうこれが最後の部会ということになります。今までの成果として、最後しっかり締めた意見お願いできればなというふうに思っておりますので、ひとつよろしく願いいたします。

それでは、議題1「平成30年度鶴見区の実践の方向性」について「地域活動の活性化と自律的な地域運営」の支援について、事務局から説明をお願いします。

○小谷地域活動支援課係長　皆さん、こんばんは。地域活動支援課の小谷と申します。私のほうから地域活動の活性化と自律的な地域運営の支援について、ご説明させていただきます。座って説明させていただきます。

それでは、お手元の資料をご覧くださいませでしょうか。左側、これまでの取組みというところがございますが、まず、目的でございます。自律的な地域運営の促進ということで、開かれた組織運営と会計の透明性の確保。それと、地域活動の担い手の確保や地域活動への参加促進ということで、これらを目的に事業を実施してきているところがございます。

その囲みの中の取組み実績ということで、これまで実施してきました内容について記載しております。

まず、1点目が会計や広報の勉強会の開催。こちらのほう、会計では本会計や事業担当者に対して事業計画や決算書の作成支援、会計がスムーズにできるようなデータの作成などの支援を行ってまいりました。また、広報では紙面づくりにおいて企画ですとか、紙面割りなどについての助言。また、紙面チェックのほか、各地域の広報の体制づくりの支援なども行ってきたところがございます。

続きまして、2点目でございます。各地域活動協議会による会計や議事録の公開に向けた助言・指導ということで、こちらのほうは平成29年度新たな取組みとなっております。こちらのほうにつきましては、この6月に開催いたしました第1回地域コ

コミュニティ保健・福祉部会の中で、会計の透明性の観点から各地活協自身が会計や決算など、ホームページ等で公表する必要があるのではないかとの意見を頂戴いたしまして、現在その公表に向けて中間支援組織と連携して各地域の公表を目指して取り組みを行ってきているところでございます。

続きまして、3点目でございます。地域活動や地域の魅力などの情報発信のほうでございます。こちらは下のほうに米印がございます。そちらのほうに記載しておりますが、平成28年度に1階の待合ロビーに地域活動情報コーナーを設置し、各地域活動協議会が発行されました広報紙の掲示を行っております。また、各地域で行われている地域活動の紹介を区の広報紙やホームページで広く区民に情報発信を行ってきております。

続きまして、4点目でございます。新たな担い手の確保に向けた支援ということで、こちらでも下段米印に記載しておりますが、今年度はツルラボ、鶴探、井戸端会議の開催など、新たな担い手の確保に向けた支援を行ってきております。ツルラボにつきましては、地域活動にまつわる事例を集めて、それを整理して地域活動に活かしていただくための情報共有の場として、5月、6月、8月と防災をテーマに3回開催してまいりました。また、昨年実施いたしました鶴探も、11月から4回実施する予定にしております。また、担い手確保のほか、地域と企業・事業所等との連携・交流の促進を図っていきたいと考えております。

続きまして、一番下の仮称となっておりますが、TSURUMI C AWARD 2017の開催ということで、こちらでも29年度新たな取り組みといたしております。こちらのほうにつきましては、地域活動協議会の広報力及び認知度の向上を目的に、平成30年の3月に実施の予定をしております。今、各地域活動協議会全地域が広報紙を発行しておりますので、各地域が作成した広報紙を1階の待合ロビーに掲示しまして、来庁者に投票していただき、最も多く票をとっていただいた地域を表彰しようと考えております。

これまでの取組み実績につきましては、以上でございます。

続きまして、右側の写真のほうですが、先ほどご説明させていただきましたツルラボの様子を上段のほうに掲載しております。また、下段のほうでは1階の待合ロビーに設置しております地域活動情報コーナーでございます。通常は各地域が発行しました広報紙を掲示しておりますが、現在は9月10日の区民まつりで各地域が作成いたしました各地域活動協議会のパネルを今月9月末まで掲示しております。またお時間があるときに委員の皆さんもご覧いただけたらと思っております。

続きまして、現状・課題のほうでございます。これらの取組みを通じてどういったことが課題かというところを私ども考えておまして、まず1点目が地域活動を行うスタッフの高齢化ですとか固定化などにより、担い手が不足している。2点目といたしましては、地域活動協議会に対して、鶴見区まちづくりセンター、(中間支援組織)に関するアンケートを実施し、どのような支援をしてほしいかという調査をした結果、担い手確保に向けた支援をしてほしいという回答が一番多かったというところでございます。また、この部会の中でもよく担い手の不足というお話しをいただいているところでございます。

続きまして、一番下の平成30年度の取組みの方向性ということで2点考えております。

まず、1点目につきまして、地域カルテを、この地域カルテというの一番下のほうにご説明させていただいております。地域カルテとは地域の強みや弱みを把握し、地域の魅力ですとか課題などを共有することができるものでございますが、その地域カルテを地域活動協議会、区役所、中間支援組織とで共有するとともに、地域の実情に合った支援を行うということで、こちらのほうも先の6月に開催いたしました第1回の地域コミュニティ・保健福祉部会の中で頂戴した意見でもございます。

それともう1点、誰もが気軽に参加できる場の情報など、活動のきっかけとなる情報を収集し、情報発信を行うことや地域活動協議会の認知度向上を図ることで、新た

な担い手の確保につなげるとしております。誰もが気軽に参加できる場というのが、地域で行われる行事ごと、盆踊りとか防災訓練とか、その他いろいろと実施されていることと思います。そういう場を区役所のほうが情報収集して、区の広報紙とかホームページで広く情報発信していくと。そういった取組みを引き続き30年も実施していきたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○久木部会長 はい、ありがとうございます。

ただいまの説明で何かご質問等ございませんか。もう皆さん今日は我々部会の最後ですから、思ったことどんどん言っていただいて、少しでも形の残る格好にして終わりたいなと思ってますので。

ございませんか。

ちょっと一つ、私のほうから質問させていただきたいんですけど、これまでの取組みとして新たな担い手の確保、その取組みをしてきたんでしょう。してきたんですよ。それは今後の課題、現状・課題としても認識してる。これについて、今後の取組みの方向性というところにその担い手の不足をどうしようか、そういう取組みはなかなか難しいと思うんですけど、どんな取組みでどうやっていくのかとか、そういうものは見える化、可視化できないか。

○小谷地域活動支援課係長 非常に難しいですね。

○久木部会長 難しい。

○小谷地域活動支援課係長 先ほどこれまでの取組みの中で昨年初めて実施しました鶴探なんかでは、各地域活動協議会の活動に携わっていただいている方も多く参加はしていただいておりますが、その他若い世代も興味を持って参加いただいているというのは実際の話でございます。あとはその若い世代と地域をどう結びつけていくかというところを考えてやっていかなあかんというところは思うんですけど、なかなか難しいところはあるのかなと思いますね。

また、逆にいい手法といいますか、いい考えがあれば教えていただけたらありがたいなと思うんですけどね。

**○久木部会長** 私が特に思うのは、まちセン、今入ってますよね。まちセンと今、区との連携ってきちっととれてますか？まちセンを、自分のところの補佐的なものとし、そういう捉え方してる地域、実は多いんですよ。ちょっと会計だけ手伝ってみたいですね。そもそもまちセンで地域支援、地域の組織支援、地域の活力支援、地域の自律支援だったはずなんですけど。

**○小谷地域活動支援課係長** まず区役所と中間支援組織まちづくりセンターとは連携はとれてると言えます。毎週1回必ずミーティングをして、各地域の実情を情報共有いたしていますし、区役所の地域活動支援の担当者とまちづくりセンターの職員とで各地域の運営委員会や部会にも出席させていただいております。そういった点ではきちっと連携はとれてると思います。

また、支援のほうにつきましては、やっぱり各地域それぞれ弱い分野というのがあると思います。できてるところについては、その自律的なところから徐々に手を引いていってるというのは確かにありますが、一番弱いところについて力を入れて今、支援を行ってきているところでもあります。

先ほどおっしゃられたように、広く満遍なく支援できればいいんですけど、今のところはまずできてない弱い部分にスポットを当てて支援をしていってるような状況でございます。

**○久木部会長** まあ特効薬がないのは確かにおっしゃるとおりなので、なかなかすぐ目先にこうだという解決策あればいいんですけど、ないんです。ただ、地域の新たな担い手というのは、地域が活発にいろんな事業をやっていく、その中で担い手を見つけていかないとしょうがないです、実は。だから、むしろ地域を活発に事業できるような、そういう自律した地域に持っていくことがまず担い手開発につながるんじゃないかと思います。そういう方向でまたこれやっていただきたいなというふうに思い

ます。

○正協委員　　ちょっと僕、意見で。

○久木部会長　　はい、どうぞ。

○正協委員　　基本的に私は役所の今やっていただいていることについては、何の不満もないし、非常にありがたく思ってるんですけど、担い手の問題については、私個人的な意見になると思いますけれど、いずれにしても今部会長言われたような形しかとれないと。現実問題として、サラリーマンの人とご商売ずっと続けてられてる人との考え方の差が物すごく大きい。私も長い間地域の活動してますけれど、やっぱり拘束されるのが嫌だというのが非常に大きな原因になっとるんですね。担い手というのはやっぱり一つの事業を起こしたり、いろんな活動をしていく場合には、日程も決まるし時間も決まる。こうなってくると非常にあれもこれもという形になってきますから、なかなか続けてやってくれる人がおられない。

ですから、基本的には違う角度で考えて、もっともっとボランティア的な気持ちを持った人が非常にたくさんおられると思うんです。いろんな活動、特に私たちのこのグループのあの問題等については、もっともっとボランティアを必死になって集めるような活動を、組織的にどうしていったらいいのか、ちょっと私もアイデアはありますが、ちょっとばかなこと言うなと言われるから言いませんけれど、そういう人たちをうまく使っていないと。長になってくれる担い手はいても、まあ私たちは今言われたようにPTAとか若い子から順番に育てていってますけれど、でもちょっとなかなか時間もかかるし、それは仕方のないことかと思うんですけど、ボランティアのことをもう少し掘り下げて役所で検討していただいたり、よその地域、またはよその市町村なんかを見ていただいて、鶴見区とどう違うのかというところも含めて考えていただかないと、なかなか担い手が本当の意味で余り出てこないんじゃないかなと。僕はそう思ってます、この件については。

○久木部会長　　はい、ありがとうございます。正協委員の意見も参考にさせていただきます。

いて、また検討していただきたいというふうに思います。

ほか何かご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

では、続きまして地域福祉力の向上ということで、事務局から説明お願いいたします。

**○河本保健福祉課課長代理** すみません、保健福祉課の河本です。よろしくお願いいたします。

それでは、私のほうから地域福祉力の向上ということでご説明させていただきます。

これまでの取組みといたしまして、誰もが安心して住みなれた地域で暮らせるように、地域福祉に関する課題の解決に向けたネットワーク構築と、地域での見守り体制づくりを進めるということを目的にしております。

取組み実績といたしましては、現在区社協へ委託をしておりますけど、住民主体のネットワーク活動推進事業で、主な業務内容といたしまして上から5つ目までですが、1つ目のコミュニティソーシャルワーカーの設置は平成28年度から行っております。

続きましての地域福祉コーディネーター、各地域1名、区で12名の「つなげ隊」の配置を平成27年から行っております。地域福祉活動に対する助成ということで、こちら平成28年度から必須活動、任意活動という形で助成金を各地域のほうへ区社協のほうから助成させていただいております。

また、有償ボランティア制度の定着ということで、こちら平成25年から「あいまち」という名前で有償ボランティアの仕組みのほうの定着を図っておりまして、現在310名の登録者がいるというふうに聞いております。

最後に、各事業や活動に関する広報を随時行っておるところでございます。

その下からなんですが、こちら福祉局から社協へ委託されている要援護者の見守りネットワーク強化事業といたしまして、要援護者名簿作成への同意の確認と名簿の作成。これは平成27年度からです。また、地域活動協議会と民生委員協議会への名簿の提供。孤独死リスクの高い要援護者の見守り。最後に、認知症高齢者などの徘徊時

のメールの配信という事業を平成27年度から進めております。

最後に、高齢者、障がい者への理解の啓発ということで、講演会の開催や研修などに取組んでおり、区民で支えよう認知症という講演会のほうを10月14日土曜日開催ということで、昨日も地域行政連絡会などで周知もさせていただいているところでございます。

また、福祉マップの作成・配付ということで、こちら平成29年度のNEWという形になっておりますけれども、昨年「つながろうふれあいフェスタ」という障がい者、高齢者と地域、団体とのつながり、ふれあいをテーマとしたイベントをさせていただいたところなんですけれども、次年度については福祉マップを作成することによってそれぞれの当事者の方が使いやすいものをつくろうということで、現在検討して進めているところでございます。

続いて、現状と課題なんですけれども、1つ目の住民主体のネットワーク活動推進事業につきましては、この実施によりまして地域の福祉活動が増えまして、活性化が図られているというふうに考えておりますが、今後定着なり推進のために引き続き実施内容を検証して進める必要があるというふうにも考えております。また、あいまち活動ですね、有償ボランティア活動のあいまち活動が増えてきたことによりまして、今後運営の方法を検討する必要があるというふうに考えております。

2つ目の要援護者の見守りネットワーク強化事業を進めていくために、高齢者同様に障がい者への理解を深めたり、民生委員さんや地域が実情に応じた連携が図れるように取り組む必要があるというふうに課題として考えております。

そういった中で、平成30年度の実施の方向性としたしましては、住民主体のネットワーク活動推進事業の現状や内容を検証いたしまして、拡充をしたような事業を進めてまいりたいというふうに考えております。

また、要援護者の見守りネットワーク強化事業につきましては、地域活動協議会及び民生委員協議会への名簿の提供なり、障がい者の理解の向上や実情に応じた連携な

どの事業説明なり情報提供に取り組んでいくということで、継続的に進めてまいりたいというふうに考えております。

最後に、孤独死リスクの高い要援護者の見守りや認知症高齢者等徘徊時メールの配信につきましても、今後継続して取り組んでいくという形になっております。

以上であります。

○久木部会長 はい、ありがとうございます。

ただいまの説明について、ご意見ございませんか。

今福祉全般について説明していただきました。鶴見区の現状の福祉がこれでいいのかどうか。あるいは今後こういう方向に進んでほしいとか、何でも結構ですよ。そういうものあればおっしゃっていただいて。

そしたら、私のほうからちょっと1点、またこれも申し上げるんですけど、現状鶴見区の福祉事業ですね。全般的に社協が担ってる分野が非常に多いですよ。これ一つには、社協と鶴見区役所、どういう関係、どういうふうにか補完し合って動いているのか。そういうのを一回教えていただきたい。

例えば、今やってる要援護者ですね。要援護者の名簿作成なんかについても、これは多分区としては提供しましたよで終わってるんじゃないかと。例えば、どう活用されてるかという、そういう検証はできてるのかどうか。

それと、あの地域福祉コーディネーター、コミュニティソーシャルワーカーも今度入ってます。コーディネーターも入ってます。これ主に活動してるのは社協のほうか活動してるんですけど、恐らくそこら辺の実情をもっと変えていこう。もっとやっぱり実態に合ったものにしていこうとすれば、今の鶴見区の地域支援課あたりがどんどん地域に入っていくと、社協だけでは到底無理だと思いますよ。

3点目なんですけど、もっとこれ、私これ当初から言ってたんですけど、もっと今の動き方というのは単年度、単年度と動いてるわけですから、であれば、せめて単年度の目先どうするか。将来的にここに目標おいてますよ。将来的な目標とか、やっぱ

り福祉については出していただかないと、もうすぐ2025年、2050年と色々な問題・課題あるわけですから、これではやっぱりちょっとね。残念だなと思いますけどね。わかりますよ、それは実態、今のその要員や予算や、いろんな実態ある中でやってるのはわかりますけど、だったら地域をどうやって使おうとか、どうやって地域力を貸してもらおうとかですね、自分たちでできなかつたら地域にどういうふうの問題を下していこうか。実態として地域は全部できてると思ってるんですよ、今。思ってるんです、みんな。自分ら心配ないと思ってるんですよ。でも決して、僕から見ると決してそうじゃない。

今の鶴見区というのは個人の力が非常に強く働いてるから何とかこう鶴見区もってますが、その辺も考えて一回お答え願えますか。

**○河本保健福祉課課長代理** 全てうまくお答えできるかわかりませんが。

まず、要援護者の名簿のことなんですけども、これ実は福祉局のほうから各24区全てに要援護者の見守りネットワーク強化事業として委託事業ということでおりてきておりまして、見守り相談室というものを区社協の中に現在つくっておりまして、名簿の活用なんかも含めて進めております。

高齢者のほうはもともと防災の関係で災害時要援護者名簿の活用がされておりましたので、これまでも見守りも含めて地域の自主防災組織で使っておられる地域もあり継続して見守りに活用していただいております。ただ、なかなか障がい者への地域の見守り活動へのかかわりが難しいものですから、今年度については、障がい者の要援護者見守り活動について、もう少し強化していこうというふうなことを考えてところです。

活用なんですけども、もちろん支援計画というか、支援プランみたいなものはそれぞれの地域ごとにつくっていかなければならないと思いますが、今のところまだ名簿を提供して、ここから先次どういうふうにしていくかというところを区社協といろんなところで話しながら進めていくつもりにしております。

C S Wですね、コミュニティソーシャルワーカーさん。こちらは鶴見区独自の取組みで、主な目的としては、つなげ隊さんが動きやすい環境をつくっていただくために配置させていただいております。また、あいまち活動もこのC S Wさんが中心となって動いておられるところがございます。そのC S Wやつなげ隊さんなどの活動を通じて、さまざまな、先ほど部会長おっしゃっておられたような集いの場であるとか、あるいはそういう見えない地域との関係みたいなものも今後進めていくべきではないかなというふうに考えておりますし、もちろんつなげ隊さんが中心となってされるネットワーク委員会の会議みたいなものであるとか、つなげ隊の連絡会、あるいはそれぞれ事業ごとの区社協との会議には、常に関係する課の職員や、我々も含めて関わりながら毎月会議にも参加させていただきながら支援も行っております。もちろん委託事業ですので、本来区がやる事業につきまして、その専門性なり、あるいはスキルを持っておられる区社協に委託し、その内容から連携をとって、進めていくというスタンスは変わらないということでございます。

また、地域力の部分なんですけど、介護保険の総合事業が始まりまして、もちろんその地域の方々の力を借りなければ進められないというのはよくわかりますし、先ほどのお話もありましたように、その地域が動きやすい環境をつくるのがそういう地域力を上げて、地域の福祉力を上げる結果になると思いますので、もちろん集いの場づくりにつきましても、これから先、例えばつなげ隊の連絡会でありますとか、あるいは生活支援コーディネーターの会議でありますとか、そういうところで一緒になって考えていきたいというふうに考えております。

以上です。

**○久木部会長** ああ、あの結局、今の要援護者の見守りなんかもほとんどの地域というのは包括か社協がやってるんですよ。本来これは地域がやるべきことでしょう、私から言うと。

例えば、特に介護度なんか日に日に変わるわけですから、1年に1回まわったって、

それは意味ないわけでしょ。今要介護2でも、3、4になっているかもしれないから。そうすると、そこをやっぱり地域に頼んでやってくださいよくらいは、やっぱり区がやらないとちょっとだめじゃないですか、これ。そういうことを期限切ってやるべきだと僕は言ってるんですよ。そうじゃないと地域は動かない、動けない。結果的にそれは地域のためになるんですから、やっぱり誰かが勇気を持ってやらないとだめだと思えます。

それを、だから、言葉だけ確かに課長の聞いていたら大丈夫だなというふうに思うんです。でも大丈夫じゃないんですよ、ですから。そこをやっぱり僕最後ですからね、言わせていただきますけど、やっぱり地域福祉って本当に地域のために皆さん思ってるんでしたらね、もっと言いにくいこと言いましょよ、地域。やってくれないことをやってくれと言いましょよ。ほっておいたらこうなりますよとちゃんとやってやらないと、地域わからないから。それを社協や包括に言わすようではだめだということです。やっぱり区が動いてもらわないと、ぜひお願いしたいんですけどね。

もし意見あったら言ってください。

○河本保健福祉課課長代理      ありがとうございます。

もちろん我々が入っている、例えば地域福祉コーディネーターの会議であるとかというのは、もちろん地域の方が出てきておられます、その方たちとの情報共有であるとか、あるいはそういう方たちと情報を密にすることで上がってくる、会長がおっしゃられているような地域の状態というのはつかんでいるつもりでございます。それが、あるいは本来の高齢者支援というもの、例えば、業務の中にも取り込みながら支援をしていけるつもりで、支援もしていております。もちろん例えば厚生労働省等が出しているようなクロス集計などでそれぞれの地域の方の介護度が何ぼの方が何人いらっしゃるということも地域包括支援センターや区社強と共有もできているつもりでございます。

だから、それを今後地域のほうにもう少し落としていけるような仕組みが必要だと思いますし、今それぞれのつなげ隊さんは、地域からきていただいているわけですから、その方が、例えば地活協会議で意見を述べていただくとか、あるいは現在区社協とこういう形でやってますよということを地域に下していくようにできればいいのではというふうに考えております。

ありがとうございます。

○久木部会長　　ぜひお願いします。

ほか、吉江委員、何か個人的にございませんか。

○吉江委員　　ちょっとお話聞いておりました、非常に我々も老人会も担い手とかいろんな面で身に迫る話なんですけども、私の校下でもネットワーク委員さん、それからふれあい員さん、これはもう高齢化してるんですわ。それでもうやめたいとか、次はやめるとか言ってるのを聞いたりしてますし、その代替わりの方がなかなか出てくれない、協力してくれへんということですね、これ先々また途中空洞になって、そういうことになったらまたもうだんだん衰退してしまっ、せっかくいい組織が崩れますのでね。

私思いますのは、現にあいまちとかで有償ボランティアしてはる人とか、地域でボランティアしてはる、PTAの役してはる女性の方とか、いろんなその人らに何とか入ってもらうように、そういう養成講座みたいなものをやるとか、何かそういう役所のほうでそういう方々にそういう知識というんですか。簡単なそういうことしてもらって、月に1回でも2回でも養成して何ら植えつけていくとか、何かはしていかないともう放っておいたら入りにくいので入ってこない。だから、今のうちに若い人、やってはる人を何とか引っ張り込むように。

昔、保健福祉センター、よく講習やってたでしょ。19年、20何年ぐらいまでは3カ月講習の間とか、いろんな病気の話とか健康の話とか、保健所で。何かあんな形式で募集しはってやるとか。現に今あいまちなんか相当の人が協力してくれてはるで

しよ。その人らを何とかそのままの延長線で引っ張り込んでそういうネットワークとかふれあい員になってもらうようにしていかないと、地域がだんだんもう社協にお任せ、区役所にお任せで、自分のところの隣近所もどないしてはるか、もうそれも分からないという状態になってきますのでね。現にもうそういう、特に市営住宅とか団地はそれです。もう戸を閉めたらもう隣とは完全に、マンションなんかもう遮断されてしまって、隣は何をしてるか全然分からないと。昔のようにお向かいさんや両隣さんとか、そういうおつき合いがあったらみんな分かったんですけど、今もうそれがちょっと希薄になってますので、何とか今のうちにそういう教育をするというのが、養成講座だからやってもらったら。

もう老人会でもそうです。そういうことを何かして、いろんな活動して人を集めて、何とか関心持ってもらおう、引っ張り込むと。何かそういうことをしていかないと、今の人はもう「人は人、自分は自分。」自分を守るのに一生懸命になりはるけど、人の世話はもうどうでもいい。横に自転車転んでいても知らん顔ですからね。何かそういう寂しい時代になってしまって、そこを何とか昔みたいに向かい三軒両隣みたいに、隣組のつき合いができるような社会に何とかひとつそういう教育というのか養成というのか指導というのか、また役所のほうでお願いしたいと思いますので。

**○久木部会長** あの前吉江委員から、何か人材センターみたいなのをつくったらどうだというような意見あったんですけど、ひとつ。

**○河本保健福祉課課長代理** 吉江委員のほうも老人会の会長をやっていただいております、若い世代の加入をということで今回も会の名前をシニアアクティブクラブという愛称に変えられて、今ロゴもつくられていろんな募集もかけておられます。そういう一つ一つの努力がやっぱり次の新しい会員さんなり、あるいは仲間を増やしていくきっかけづくりになるんじゃないかなというふうに思います。

それと、もちろん講演会であるとか、あるいはその養成講座みたいなものも必要なのかもしれませんが、それは例えばそれぞれの集めたい目的であるとか、ある

いは地域の単位でもいいと思うんですけど、そういうところで開催することが本当の一番自分に近いというか、集まりに、趣旨に近いことになるのかなと思いますし、それへの支援とか、あるいは今また社協に頼ってしまうかもしれないんですけど、生活支援コーディネーターという集まりの場をつくるコーディネーターもいますので、そこと区役所も連携しながらそういう、例えば担い手づくりとか、集まる場をつくったり、進める人を育成したりというような形は進めていけるつもりにはしております。

○吉江委員　私ども、この間からちょっと手遅れなんですけども、とにかく会員になってくれと。70になっても75になってもどうですかというと、いやまたそんなと言って逃げはるんです。なかなか老人会入ろうかという人は少ないんです。

だから、それはもう仕方がないので、それよりもこの間の区民まつりでも私ども今までうちのブースでは囲碁将棋をやっておって、これ今年は将棋ブームで子どもさんがちょっと増えたというくらいなんですけども。それよりもちょっとお母さん方引っ張り込むように、子どもに魚釣りさそうかと。それでちょっと魚釣り遊びというのをやってね、それは手前にみんなつくったんです。そしてそれひっかけて釣る。そしたらね、若いお母さんが一緒に来る。ちっちゃい子。それはまだ保育所、幼稚園行ってる子から小学校行ってる、それぞれのやり方、マグネットでつるやつと、それとひっかけるやつと両方つくってね。そしたらね、そのとき老人会にいろんな資料とか、それから会の宣伝文句いろんなの持って帰って見てもらうというので、袋に入れてみんな渡したんです、いろんなものを入れて。そういうことで、そういう若いというか、そこの人から関心持って、老人会の今年てるねと。なのでこのネットワークでもそうです。ネットワーク、こんなに苦労してはるよと、どうですかという具合にして、やっぱりそういうふうには渡しておいたらね、それを今すぐにはなかなか反応がありませんので、私はもうこれは3年でも5年先のほうでいいと。今から活動しておかないと、それでやろうということでこの間魚釣りやったんですけどね、用意したのが全

部出てて、まだ足りなくて、非常に若いお母さん方に好評でした。

そんなことで、やっぱりその対象、自分たちの幅だけにしないでもっと下げてやったら、ちょっとうまくひっかかるかもしれない。そんなことで、やっぱり活動することです。

**○久木部会長** はい、ありがとうございます。

老婆心ながら言えば、やっぱり福祉政策って地域活動協議会でやらなきゃだめなんです。これが、ですから、福祉施策全部を社協でやれって、それ無理なんです。だからやっぱりそこに人も集まらない、動きもとれない、いろんなところにやっぱり出るの、これはちょっと次回考えてほしいですね。この、これについてはぜひお願いします。

**○野村副区長** 先ほど部会長さんから将来の目標をどうやって立てていくかというお尋ねがございましたけれども、確かに行政の予算というのは単年度単年度のものなんですけども、大阪市全体としまして、例えば高齢者福祉計画ですとか障がい者支援計画、地域福祉計画での各分野の計画がございまして、こういうのは大体3年くらいのスパンで社会制度の変更を見ながら見直しを行っていくというふうになってまして、鶴見区としましては地域保健福祉ビジョンというのがありまして、その大阪市の計画を踏まえながら進めていくということでやっております。

そういうところで今後大阪市の区がどうなっていくかというのがちょっとなかなか難しい問題がございましてけれども、その時々に合わせて見直ししながら進めてまいりたいと考えております。

それから、先ほど吉江委員からございました各種講座の件でございましてけれども、保健福祉センターでいろんな健康づくりとか食育とか、各種の講座やっておりますので、そういう講座を受けていただいた方がまた地域のボランティアとして活動していただくというような取組みも、引き続き必要であればやっていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○久木部会長 はい、野村副区長さん、ありがとうございました。

それでは、ほかご意見なければ、続いて健康づくりへの支援ということで事務局からの説明をお願いします。

○大田保健福祉課担当係長 保健福祉課の大田と言います。よろしく申し上げます。座ってさせていただきます。

私のほうからは健康づくりへの支援についてご説明いたします。

これまでの取組みとしまして、健康寿命の延伸を目的として、特に生活習慣病予防とした肥満者、メタボ予備軍の減少を目指してまいりました。

取組み実績といたしましては、幅広い年代の方に向けた健康づくりへの動機づけとなるような事業を実施してまいりました。具体的な取組みとしまして、現在どの事業も秋から冬にかけて実施に向けて準備中ではございますが、誰もが簡単に運動を始めてもらえる事業として、今回10月5日と11日の2日間にかけて実施されるウォーキング教室を今月20日までで募集をかけています。

また、ウォーキングの習慣化を支援するものとして、ウォーキングカレンダーの配布を予定しています。見本がこちらになります。

また、来月10月28日には食育フェスタと健康展の同時開催を予定しています。お配りさせていただいているこちらのチラシがちょうどでき上がりましたので、お配りしているところです。

12月にはこころの健康づくりとして、睡眠と健康をテーマとした講演会を予定しています。こちらもチラシができましたので、参考にお渡ししています。

次に、現状と課題につきましては、国民健康保険加入者で40歳以上の特定健診の方の状況となりますが、大阪市全体ではメタボに該当する人や肥満者と判定が出た人が増加傾向にある一方で、鶴見区民の方は減少傾向にありますのでよい結果と言えますが、メタボ予備軍と判定された人の割合が大阪市平均を上回り、増加傾向にあります。それで特に男性は50代から60代にかけて、女性は60歳代以上の方で脂質異

常割合が高くなっていることから、この年代の方をターゲットにして日常生活で運動習慣を図る取組みが必要と感じています。

これらの現状等課題を踏まえまして、平成30年度の取組みの方向性といたしましては、従来から取り組んでいます健康まつり、食育フェスタ、ウォーキング教室、健康に関する講演会、広報紙やホームページなどによる健康に関する情報の発信を継続するとともに、現状も健康づくりの啓発として食育啓発や百歳体操などの健康講座などでご協力いただいています地域団体や関係機関の皆さんと一緒に、来年度は地域ごとに運動の習慣化に向けた環境整備への取組みを強化していきたいと考えています。

例えば、スポーツ推進委員の皆さんと新たなウォーキングコースの作成や、健康づくりの推進協議会の皆さんのご協力で自転車や車を使わずに歩くことで消費できるものなど、会館から駅まで、歩数などの計測をして、それを啓発ポスターとして貼り出すことなどを考えています。また、食推さんと一緒に消費できたカロリーを食べ物に置きかえてみたらどれくらいになるかということも一緒に取り組んでもらい、ご提供できるように進めていきたいと考えています。

この項目につきましては、拡充とさせていただきます。

私のほうからは以上です。

**○久木部会長** はい、ありがとうございました。

これについてご意見ございませんでしょうか。

田中委員もずっとウォーキングされていますけど、どうですかこれ。

**○正協委員** あの、先ほども言いましたけども、非常にいいことやっていただいているんですけど、どうもやっぱり実際に実を上げようと思えば、今表面的なこといくらやったってならないと思うんですね。

実は私ごとで申し訳ないんですけど、この前糖尿病ということで診断されて、古い人は知っておられるけど、僕ものすごいおなかこう出てました。今へっこんでると思うんですけど。8月に10日ほどちょっと入院して、教育入院ということで食べ物か

らいろんなカロリー落とすこと、いろんなことをやったんですけども、家帰ってしま  
うと食べ物との関係はほとんどもうできないんですね。そんなこと言ったら家のほうは  
もう死んでしまいますから。それよりも僕がものすごく効果があったなと思うのは、  
例えばこの食育のときにいろんな健康のバロメーターつくるでしょ。血管年齢だとか  
いろんなことをやったり。それと、そういうことに対して目標数値を自分でつくって  
みるとか、誰かがつくるとか。僕は食べ物は7割から8割ぐらいに減らして、そのか  
わり朝と晩と歩いているんですよ、今。まあ40分くらいですけどね。朝40分、夜  
40分。それで4キロ減りました、8月と今現在でね。おなかもへっこんだんですけ  
ど、これでいいのかなと思って、今まだ疑心暗鬼で思ってるんですけど、どこか体悪  
いんじゃないかなと、減ってきたから、思ってるんですけど。

やっぱり個人の動機づけというのは研修、学習活動でいろんな形でやっていただい  
てますけど、あまりこう響いてこないんですね。そしたら、鶴見区で今メタボが多い  
と、予備軍が多いということですから、予備軍を完璧に減らす何か法則ないのかとい  
うことを、やっぱり食べ物減らすことと歩くことが一番いいと思うんです。教育もい  
いんですけどね。

先ほどちょっと説明の中にありましたこの広報紙を投票して評価して表彰するとい  
うことをおっしゃってましたね。どういう意味でされるのかそれは知りませんが、  
この歩くということに対してもっと個人的に表彰できるような、積み重ねでできるよ  
うなものを何かできないかどうかね。というのは、これ今まで健康の教習だとかカレ  
ンダーもいいことで、食育フェスタもいいことですけど、大概年に一遍しかやってま  
せんわね。年に一遍やったら、もうしないよりしたほうがましだし、予算の関係もあ  
るからそうなるんだと思います。予算と人のものもあると思いますけども、実のある  
何かね。個人にズバッと何かインパクトを与えられるような方法にお金を集中したり、  
人を集中してやったほうがいいのではないかな。そのようなことを考えてちょうだい  
というのが私の意見です。すみません。

○久木部会長     ありがとうございます。

今の件で大田係長、例のウォーキングの何かランキングして表彰できないかという意見と、それから今正脇委員が言った、予算の関係もあるけどもうちょっとこういう歩くということ大事だから、もうちょっとできないかというような意見あったんですけど、いかがですか。

○金森保健副主幹     保健師の金森です。座らせていただきます。

とてもいい意見ありがとうございます。ウォーキングに関しましては、非常に難しいところもございまして、今おっしゃっておられます糖尿病とか治療されたり、高血圧治療されたり、医療が必要な方のウォーキングと、全く健康で病気が全然ない方のウォーキングというのはちょっと意味合いが違って来るんですね。それで今すごくいい意見いただいたんですけど、歩数を伸ばせばそれだけどんどんいいという方もおられるんですが、やっぱり血糖値とか高血圧とか値に応じたウォーキングが必要な方もありますので、その辺非常に難しいところです。

そのあたりでランキングという意見もうちの担当内でも一部ちょっと出たんですけども、8,000歩が10,000歩、10,000歩が15,000歩になれば、その人が一番いいという考え方も一つはあるんですけども、その方が5,000歩でも毎日続けたらいいというところら辺で、病気との関連がありまして、来年度は環境面に施策をシフトして、目安として区役所から会館まで1キロで大体10分でこのくらいですよということで、目安を環境整備してということで取り組んでいただくということを考えてこの計画になっております。今の意見もごもっともなことなんですけど、その辺を慎重にウォーキングの歩数を合わせていく必要がある方もおありということでの検討になりました。

○久木部会長     はい、ありがとうございました。

すみません田中委員、後になってしまっ。

○田中委員     先ほどからお話聞いてまして、地域活動とか、それから昔の社協です

かね。そういう町会活動を含めてやってこられた先輩がたくさんで、私からそういう点ではあまり意見なかったんですけど、私の出番というのですか。最後この健康支援ということ。

今お話大田係長からありましたけども、保健師の先生からもいいお話いただきました。私は健康づくりというのは基本的に自己管理だと思っているんです。だから、自分でそういう自然回復力というか、十分理解して、自分で自己管理していくという。食べる、それから睡眠もそうかもしれません。寝て食べて、運動して排せつすると。これが自然のそういうルールだと思うんです。だから自己管理が基本と。

今、さっきのお話、保健師の先生のお話聞いて思ったんですけど、1週間くらい前ですかね、テレビでウォーキングの先生が、どこのテレビだったか、NHKか何かですかね。30分くらいの番組やってまして、歩けば歩くほどいいんじゃないんですよ。1日8,000歩でいいんですよ。8,000歩の中で、それは階段上がったり、主婦の場合は掃除したりですね、食事したり買い物行ったり、それも含めて8,000歩でいいんですよ。それ以上することは別に要らないと。15,000歩歩いたからといって、それは健康に本当にいいのかということとはわからないと、そういうお話なさってました。ただ、8,000歩の中で有酸素運動というのですか。ちょっと力入れてする歩き方を20分すれば、1日で20分すればそれで十分ですよ。まあ毎日やるのがいいんですけどできない日もありますので、そのときは4,000歩でも、翌日翌々日にまたそのカバーしておけばトータルとして8,000歩で十分なんですよ。15,000歩歩いて、それでも肥えてる人は食べ過ぎなんですよ。その人は食事を改めないで糖尿病になったりそういうものになると。そういう話がありました。

それともう一つですね、これは私の自己管理の中で心がけていること。これ間違ってたらまた先生指摘していただいたらいいんですけど、空腹時に運動をしてはだめと。だから、私は朝起きたらまず水を1杯飲みます。小腸の動きを活動させて、それから

朝食をとります。朝食とったあと散歩に出ます。大体30分。30分以上はちょっと時間もあれなんで、30分歩くようにしてます。もう雨の日もいろいろあるんですけど、できるだけ続けると。そういう生活で肥満になったこともないし、糖尿病系のそういう診断を受けたこともありません。だから、やっぱりそういう毎日毎日の積み重ねが健康寿命を延ばすと、そういうことです。

えらい長い話になりましてすみません。もう一つだけ、せっかく皆さんこうして集まっておられるので、特に行政に携わってる区役所の皆さんおられるのでね、健康まつりいろいろやっていただいてありがとうございます。本当に私どもできるだけ参加させてもらって参考にさせてもらっております。やっぱりこう運動というのは健康運動ですね。鶴見区民の健康運動になるようなそういう盛り立てを、それは啓発とかそういういろいろ講演とか、それからいろんな先生呼んで来たり、そういう企画をやっていただけたらありがたいと思ってます。

以上です。

**○久木部会長** はい、ありがとうございました。何か貴重な意見たくさんもらいました。8,000歩でいいんですよ。その間に20分有酸素運動もせいよという、あと無理はするなよ。自分の体に合わせた、身の丈に合ったウォーキングやれよということは今言っていただきました。

ちょっと最後に田中委員言われたんですけど、啓発活動、啓蒙活動ですかね。こういうふうにしたほうがいいですよとか、さっき保健師さんにも言っていただきました。そういうのというのは今後どうなんでしょうか。

区としてそういう会を持つとか、あるいは区民センター大ホールに誰か呼んで1回やるとか、そんな企画を今後どうですかという提案なんですけど。

**○金森副主幹** すみません、金森です。数年前に健康まつりのときにウォーキングの教室をさせていただいたんですけど、健康まつりってちょっとお祭りのイメージがありまして、割とあちこちの部署でにぎやかにいろんなことをされてますので、そ

のときにしたウォーキングがなかなか効果的なウォーキング教室とかPRができなくて、別で数年前からウォーキングというのを教室として、今年度に関しましては2回こういうのさせていただいて1回目は区民センターの大ホールで、2回目は緑地を使ってウォーキングという形で、形を数年前から変えております。だから一時は健康まつりでさせていただいていたんですけど、なかなか集中して効果的なウォーキングを学ぶということができにくく感じましたので、ちょっと形を改良させていただきますが、そういうことが大事だという啓発はもちろん続けて、そういう機会ですさせていただけたらと思っておりますので。ありがとうございます。

○久木部会長　それでは、もうひとつ方。

○田中（潔）委員　ちょっと補足だけ。その催しなんですけど、ちょっと難しいかなと思うんですけど、ラジオ体操も6時半からするんです私。あれ8月は巡回しているんです。鶴見緑地で一遍1,000人ぐらい集めてやったらどうですか。全国放送ですよ。そんなことが参考になるかどうか、大変だと思います。以上です。

○久木部会長　NHKを呼んでね。

○田中（潔）委員　鶴見緑地で1,000人集めなあかんですよ。

○久木部会長　1,000人は集まりそうですね。

○田中（潔）委員　1,000人くらい集まると思うんですけどね。

○久木部会長　集まりそうですね。今3カ所くらいでやってるでしょ。鶴見緑地ね。あれ集めるだけで300人くらいおりますよ、今。

○笹原委員　各地域の健康まつり的なところで、茨田東さんはウォーキングの基本をやっておられるんですね。緑もウォーキングとか体力測定とかいろいろやっているということで、それぞれの地域ではそういうふうなウォーキングとか、全体ではまだできてないですけど、それぞれの地域では基本的なウォーキングの仕方やっておられました。

今さっき、糖尿だとかなんとかとおっしゃるんですけど、皆さん食育のときの場で

お話ししているが、自分が病気にならないと絶対改善しないです。幾らこちらが基本的な味というのはこういうもんですよと、皆さんの食生活どうですかと言うと、自分に合った食事の濃さとかそれが当たり前できてるから、まずは糖尿とかいろんな病気になって初めて医者にかかって、自分の食生活はいかんかったんやなというのを感じられるということが非常に多いということで、本当これ地道な活動だと思います。

田中さんも男性料理教室に来ていただいて、調理実習をしていただいてこのお味はどうですかと、薄いなという方がだんだん少なくなってきたというのはすごくいい傾向だと思うんです。基本のお味に皆さん意識が高まってきたというところ、すごく感じるんですけども、やはりいろんなことをやってることを広報でも何でも見ていらっしやらない、知らない、いろんなことをやっておられるこの食育フェスタでも、触れることによって、まず足を運ぶことによって、なるほどなこういうことをやってると、3D身体計測なんかみどり健康まつりでやってて、これはすごくすばらしいことだなというのは自分の何年か後はこういう体型になる、このまま食生活を続けていたらこんななるということを教えていただいた。出向かなきゃ教えていただくことができないという結構こういう啓発活動はされてるというか、してるのにもかかわらず見てない、参加してない、その自己責任という部分が結構大きいところがございます。と私は感じたんですけど、やはり自分の体は自分しかわからないですし、自分に合った運動、食生活ってあるんで、これでなければならぬというもんじゃないんです。ただ、それを知っていただいて今の自分の食生活がどうなのかというのを気づいていただく、お互いに。だから痛風になってこの値が多いんだ、じゃあビールを2缶から1缶にしようとか、そういうのはその人しかできない。だからこれはやっぱり自己啓発でしかない部分が大きいかなと思います。すみません。

**○久木部会長**     ありがとうございます。田中委員言われてた、最後は自己管理なんですけど、でもやっぱり問題になるのは自己管理、みんなわかってる人はいいいんですよ。要するにわからない人がいっぱいおるから何とかせなあかん、そこが実は問題に

なってくるんで、それをどういうふうに啓蒙活動、啓発活動やっていこかというところやと思う。そこで、区役所の皆さんも随分苦勞されとるとのことなんですけど。

吉江委員、すみません。

○吉江委員　今そういう健康管理とかいろんなお話あったんですけども、今百歳体操が非常に普及しております。行ってた茨田東でも月3回やってはるのかな。それから、そこの老人福祉センターでA Bコースで月7回やっております。けど、メンバーはそう変わりまへん。そこが問題なんですわ。もっと手軽に参加できるように、もっと普及するとか何かをしてもらわんと同じ人ばかりやってるわけです。そういう普及活動をもっとしてもらおうのと、特に地域でやってもらうように。福祉会館の空いてるときは何とか近くの人を連れてきて一緒にやるとか、あとおいで言うたらこのセンターなんかやったら元気な人でないと来れませんからね。その点地域の福祉会館やったら、近くの人がお互い助け合いしてきて運動できますので、そういう機会をもっともっとやってもらえるように、地活でやってはるのよね。もっとそういう若い人にリードしてもらおうようにしてほしいと。

それと、歩こう会ですけど、私ども区労連で4年に1回大労連が推奨して高齢者ウォーキングと言うて各いろんなコースをつくって1年間毎月1回か、今2回、3回もあったのかな、今年の春3月で終わったんですけども、あと自主的にやりましょう言うてもやりません。やっぱり何かそういう旗印揚げんとね、誰かがリードでやってな言うても結局誰もしてくれんさかい、それでこの活動は1年やって終わり。ほんで何年かしてもう一回またやる、その繰り返しでやるとるんですけども、このウォーキングでもワダカルシウムさんなんかやってますね。去年やってはりましたね、何か月間、二月か三月か。そういうところとタイアップしてやるとか、何か盛り上げる、ワダカルシウムさんのとき、よくうちとかち合うたときがあったんです。ほいなら向こうのほう行ったら何かくれるさかいて、向こう行きはるんです。そういうちょっと何かあったほうが、みんな参加しはるのもあるし、それと高齢化していくようでしょう思

たら区役所でもっと旗振ってもろて月に1回やるということで、1回歩いて1回講習とかいうこれも大事ですけども、鶴見区は緑地公園があるんです。こんないい好条件の区はないんです。区民まつりしても鶴見区は断トツです、すごい人で。よその人が何かと感心してええなど。ここ歩こう会でも東淀川区とか住吉とかから歩きに来はるんです。そういういいものを持ってますので、それを利用してもっとここで歩こう会とか、何かをひっかけてやるとかね。

昔、私ひまわり会という保健所の会の初めのうちで、東海道五十三次なんかつくって、そこへずっと書いてその用紙がいっぱいになったら1年間何枚ためたとか言うて、表彰しとったんです。3枚集めたとか。全部歩いて10万歩かな、1年間それが何カ月間と歩きはるんですけど、それを1年間統計して表彰しておったんです。しまいに歩かんでも丸書いて持って来はる人増えてきて、言う人がおって、歩いてへんの丸で持って来はるとか、それでやめたんですけど。やっぱりそういう表彰制度です。昔子どもがラジオ体操行くのに発行して、皆勤したら何かもらうとか、そういうシステムをつくってあげて、そういう活動に参加しはったら1年にまとめて表彰するとか、区民大会か何かのときに。そんな大層な商品は要らんさかい、紙1枚でもいいさかい、そういう表彰状出してあげるとかしたら励みになりますので、増えると思いますし、やっぱりただより何かあったほうが、と思いますので。

すみません。 はい、どうぞ。

**○笹原委員** 今の地域振興じゃないけど、表彰の分なんですけど、紙1枚もらうよりその区の予算が立てば、自分の健康、ウォーキングするなりなんなりをずっと続けたり、健診をずっと続けてこられたりするのにはスタンプを押してもらって、健康になるためにそれをずっと続けて、10回なり20回なりちゃんと自己管理できてやってますねという人には地域振興券なり何か予算の中から発行してやっていってる。静岡県そうなんです。地域、ふじのくにという。そこ健康寿命というのはすごい延びてるというところで、その地域振興券ってむちゃくちゃ高いんじゃないんだけど、頑張

ってる部分でランク分けして最後にこういうふう頑張った人には勝利のレシピ集とか、そういうふうなものもあって、予算がそちらのほうに向けば皆さんの励み、紙1枚は別に要らんわとか、すごく立派な100歳になって表彰状よりも金一封がありがたいとかと言うぐらい、やはり本当に励みになるというところのものというのは必要かもしれません。啓発に関して。

**○久木部会長** 今何かこんなふうに話がどんどん変わってますけど、これは健康でやるんか福祉でやるんかですね、どっちの予算使うかわからんですけど、こういうのは1つちょっとおもしろいかもしれませんね。

ちょっと事例でありまして、お年寄り65歳の方がもう28%になったとかって言ってますけど、特に吉江委員の老人会のほうで言ってほしいんですけど、100歳になってもいいですよ。健康だったらいいんです。歩けたらいいんです。自分のことやれたらいいんです。いろいろかからんのですからね。だからやっぱり地域、それと特に地域の老人会とか中心になって、何か思索していかなあかんのでしょうか。多分。それを国だけ頼ってもそこは無理があるんでしょうね。というのは、自分らゲートボールやグラウンドゴルフだったらみんな行ってるんです。ほんでこっち何かするときいたら全然集まらないんですよ。だからやっぱりそこら辺もちょっとあるのかなというふうに思います。

ただ、さっきのあれは福祉予算とか使って何かできないんですかね。何かおもしろいですよ、野村副区長。

**○吉江委員** 国民何とか大会とか、ゲートボール大会とかグラウンドゴルフ大会とか年に1回。

**○野村副区長** 先ほど委員にいろいろご指摘いただきましたように各地でいろんなポイント制度とかそういう景品を出すとか取り組んではるのもたくさんあると思うんです。またそういうのを参考にしながら、どういう形でやっていくのが一番いいのか、これから検討してまいりたいと思います。

○早野副部長 大阪ガスが大阪城公園でウォーキングやっていますよね。あれが必ずお茶入れ、ポット、水筒、あれをくれるんです。紙に判もらってしたらそれをくれるんですけど、今年からそれが無いんですって。そう言ったらうちの連中もみんなやめたって言うてるしね、やっぱり何かがあれば皆さん集まるんじゃないかなと思うんです。結構なかなかいい話も、各ウォーキングの先生が来てやりますし、私たちも何十年と行ってるんですけどね、それは。地区ではしないんですけど、それだけは物くれるから行ってるのかな。確かにそういう話がうちのほうにもたくさん挙がってます。今度はもうウォーキング行っても何ももらえないからねって言って、楽しみがないわとか言ってるんですけど、そういうこともありますので、お願いします。

○久木部長 最後に活発な意見をいただいたんですが、これで一通り終わったのかなというふうに思います。

あと、予定されてる議題はこれで全部終わりました。

私のもと一緒に部会をやらせていただくのも今日が最後ということで、今までやってこの区政会議の委員になってどうやったのかなと、一言ずつでも結構ですからご感想を順番にいただければなというふうに思ってます。

笹原委員からこう回りましょうか。どうぞ。

○笹原委員 こういうふうにしゃべるのは本当苦手なんですけども、いろいろ皆さんのご意見を伺う中で自分が今までスルーしてた見て来なかった部分というのが、結構この視点で見ればこうなるな、この視点で見ればというので、随分昔からすると区役所が変わってきたというのが、トイレの音姫さんというので音の出る、ここで水道代はちゃんとできるんだなというこの音姫、音が出るのがついてるんです。だからそういう一つ一つを区役所の一つ一つに関心が持てるようになったということ。

そして、自分が気づいたことを皆さんにお伝えできるという部分が、変わったこと、だから広報紙も随分今なんか、今日も見ましたがとてもすばらしいです。1階の広報紙それぞれ地域として皆さん頑張っておられるんだなというの、今まではスルーしてい

たことが一つ一つ立ちどまって考えられるようになったという、基本に自分の感覚がきてるんだなというところを学ばせていただきました。

本当に区役所の変わりというか頑張っておられるのが、この区政会議によってまた皆さん活性化されてるんだろうかと、すごく自分の中でも活性化されました。

本当に、ありがとうございました。

○久木部会長 はい。ありがとうございます。

では田中委員、お願いします。

○田中（潔）委員 伝教大師の言葉ですかね、「一隅を照らす此れ則ち国宝なり」と。実にこういういい委員をさせていただきまして、そういう志の高い一隅を明るくしていると、そういう方々との交わりができました。これは私にとってものすごく刺激になりまして、頑張らないかと。もう70になりましたんですけど、もう一頑張りできるんじゃないかなと、そういうふうになんか今思ってる、それは一重にこういう役割を担わせていただいて、そういう志の高い人と交わりが、あるいは見れたと、これが私のものすごく収穫です。

それともう一つ、鶴見区役所ってあんまり縁なかったんですけども、こういう役割させていただきまして、区長さんを初め皆さんと親しくお話できる機会ができて、本当に頑張っておられるなとそういう感謝の気持ちで今いっぱいです。

引き続き頑張ってくださいまして、鶴見区をどんどん盛り立てて、24区の中でナンバー1とそういう区にさせていただけるように、私も陰ながら応援しますんで頑張ってくださいと思います。以上です。

○久木部会長 はい。ありがとうございました。

それでは、正脇委員。

○正脇委員 特に考えることはないんですけど、今日アンケートを書いて頂戴と言うてこの紙もらったんですけど、やっぱり私自身としては勉強不足のために知識が不足していたんだなというのがよくわかりましたし、それから区政会議は2年間参加さ

せていただいているんですけど、あまり区政に参画している実感が私自身はなかったというのが非常に残念なんです。自分自身が残念なんです。

それと、やっぱり先ほどの会議の中で言われたように、私の場合は大阪市の中で鶴見区が係数ではかれる部分は、これは一番になるんだというような目標をすかっと立ててもらって、全員がそれに向けて何をすればいいかと、お金の問題についてはどこかに集中してどこかを削らんと、パイは決まっているんですから、何かやり方とか方法あるんじゃないかなと思う。でも、役所の行政にとってはこれがベターかなと、と言うのは何年も何年も続いていくわけですから。これでベターかなと。そんなこと考えて区政会議に本当に参加して言いたいこと言わせていただいたんかどうかというのは非常に自分自身疑問に残っております。

どうもすみませんでした。長い間。

**○久木部会長** 正脇委員、ありがとうございました。

吉江委員。

**○吉江委員** 私は、うちの前会長の佐藤さんの急逝で急遽私がということになって、区政会議に参加させていただいておるんですけども、私はもう区老連って言うんですか、ここの窮状を訴えて何とか盛り返したいと、何とか若い人に老人クラブに入ってもらいようにしたいということで、前の区長さんにも何とか新しい組織をつくってくれと、今の組織にはもう入ってけえへのやさかいに、そういうことを行政でできへんのかとお願いしたこともあったし、今の区長さんにもそれはお願いしたことあるんです。けど、それは他力本願でないやっぱり自分らがやらんことには、そういうことで私今ここで絶えずこういうことやってる、こういうことする、とにかく何とかということで、この間も今年もいいアイデアをもらたんです。私も言われまして、老人会の名前が古いでと、そんなもんで誰が入るんだと言われたし、それで何とかと思ったけど、別に老人は老人やけど余り変える必要ないん違うかと、自分は自信もってやっとならええことやし、そんな卑下せんでもええんと違うかと思ったりもしたけども、

やっぱりこれからの時代はそういうこと言うとしたらあかんと、ほんなら何かどないしようかなと言うとしたら、たまたま河本さんからアイデアをもらたんです。ちょうど来はって、吉江さんどうやねと、ちょうど館長もおって、ほんで3人でどうのこうの言うてそこでぱっぱとアイデアが出て、ほいでロゴとかマークを、決定してからいろんなあれ頂戴したり、いろんな便宜図ってもらいまして、とりあえず今試作品をつくってこの間の区民まつりでは配布したんです。そんなことで、それをまたいろんなクラブの会長さんでも貼るシールを欲しいと、そう言うて自分とこでそれ物に貼って町会長やそこらに配るようになるとか言うて、そういう案も出てきたりしていろんな活用方法があるんで、とにかく名前を売ると、老人会はこういった活動しているということを知ってもらう、これがまずやと。入ってもらうのはその次にしようということで、今とにかく何でもやっていこうと。この間も救命講習やったんですけども、これも初めてのことで、今まで消防署でやってたことあったんで、それよりも一般の人とかセンターの職員とか事務員とかそこらみんなでやるということが、ただ会長が研修で行くとかそれよりもそういう、ちょうどあそこの内側にはとぼっぽ保育所がありますので、そこの人らにも参加してもらいまして、来年のまた2月にも今度女性部だけでご飯を炊くとかいろんな何かをみんなでやろうとアイデア集めたりしてるんですけども。

そんなことで、ここでいろんなご意見頂戴しまして、それを私またうちの自治会会長会でそれをみんなに話したりそういうことで私もまた発言したり、そして自分の発言したことには責任を持って行動せんとあきませんので、そういうことで非常にご意見聞いたり言うたりしたことが自分の身について、本当にいい区政会議で勉強させてもらったことがプラスになって、老人会も生き返ろうかなと思って頑張っしてないと。

それと私当初はほんまにやりにくかったのは、うちの息子が前にここでお世話になっとったんです。ほんで息子の後やらせてくださいと、おまえのところの息子しっかりしとったけどおまえはあかんでと、そんなことになったらえらいことになるし、逆

になってもつまらんし難儀やな思って、一時は出席させてもらうのも迷ったことあったんですけども、それよりも自分の思ってることを言うて皆さんに聞いてもろて、それに対する反応を聞いてやっていったほうがええんとちゃうかと、開き直りと言うんでしょうか、そんなことでとにかく頑張らせてもらいました。

本当にありがとうございました。またこれからも、よろしくご指導いただきますようお願いしたいと思います。ありがとうございました。

○久木部会長 吉江委員、ありがとうございました。

それでは、副部会長としてずっとサポートしていただいた早野さん。どうぞ。

○早野副部会長 いよいよもって区政会議終わりですけど、私も吉江会長からずっといろいろ話聞いてて、茨田東もずっと回ってウォーキングできる、ありますよね。あれをやって何か景品でも出すとか、やったら集まると思うんですよ。ほんで公園で体操を最後にするとか最初にするとか、それをいつも思ってるんやけどね。結構回るのでしょブロッサムのほうからずっと小学校のほう回って、ほんなら結構いいんじゃないかなと思って、大阪城公園も何回も行って見て、ちっちゃいので自分とこでできないかなと思ってたんです。

それと、この前私九州に行ったもんだから、九州に認知症の人連れて帰ったんです。大変だったです。本当に大変だったです。それで向こうで姉がちょうど役員やってまして、食事のことをやっぱりやってみました。そのときに食事を人がしてくれるんですけど、一人一人そのときの材料を持って帰るようにと、持って帰ってつくってくださいと、1回ここでやりましたので今度は自分で持って帰って1回試してくださいというのをやってみましたけど、それを姉が持って帰ってやってたから私らもそれやったんですけど、あれは私いいなと思ったんです。ここだけでつくるのやったら、あんたは切る人、あんたは味つける人とかうなるとわからない、はっきりしたあれが。それも経験したことがあるので、これはいいな、こんなん持って帰って自分とこでつくるということは、それを見本にしてというかそれを参考にしてするのはいいなと思いま

した。そういうことです。

女性会も頑張っていこうとは思ってますけれど、3月までですので、よろしく。

**○久木部会長**     ありがとうございます。

それでは、2年間本当に早いもので、もう2年たったかと思うんですけど、吉江委員は途中から参加されたというんですけど、非常に活発に意見を出していただいて、正脇委員も最近は入院されたりいろいろ体のことはあったんでしょうけど、しっかり出ていただいて意見も言っていたいて。

田中委員はいつも真っすぐ前向いてしっかり考えていただいているのかなと。

笹原委員はやっぱり活発です。考えも活発ですし、どんどん行け行けどんどんで言うんですけど、すごい行動力持ってるなど。

早野さんはほんまにこうやってサポートしていただいて、いいメンバーに恵まれてこの部会やっていくことができました。そういうことで、私のほうもほんまに感謝を申し上げます。

ということで、いよいよ最後になってきました。ほんまに活発な意見をいただいたところなんで、ここで今日お見えになっている野村副区長から最後、総括でいただければなというふうに思っております。

**○野村副区長**     本日は、遅い時間から足元の悪い中ご出席いただきましてありがとうございます。委員の皆様方にはこの2年間大変お世話になりました。まことにありがとうございます。

いただきましたご意見につきましては、既に区役所として取り組んでおりますもの、それから来年度以降の予算運営方針に反映していくように、たくさんに考えております。特に行政が気がつかないところをいろいろ教えていただきましたことを感謝いたしております。

委員さんの任期が今月末までということでございますけども、引き続きまたいろんな形で、お気づきの点がございましたらご意見いただければありがたいと思っております。

ます。本日はありがとうございました。

**○久木部会長** それでは、本当に2年間ありがとうございました。これで鶴見区区政会議地域コミュニティ・保健福祉部会、これで終わりということになります。

私も非常に厳しいことばかり言ってるんですけど、僕ね鶴見区役所一番いいと思うんです。非常にみんな優秀で、優秀やから要らんこといっぱい言うてるんかなとも思うんですけど、でもほかの区から比べると鶴見区すばらしいなというふうに思っています。ぜひ皆さん方おってくれるから、みんなも安心できるんで、できるだけ今後もそれぞれ分かれていかれるんだろうというふうに思いますが、これからも鶴見区忘れないで鶴見区のためにまた頑張っていただければなというふうに思っております。

それでは、長い間2年間ありがとうございました。

これで、閉会いたします。ありがとうございます。

**○岡田保健福祉課担当係長** すいません、それでは、最後に事務局のほうから事務連絡をさせていただきたいと思えます。あらためまして、本日は多くの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。最後に、本日お配りさせていただいております、先ほど正協委員からもありましたけれども、アンケートについてご協力をお願いします。6月に実施いたしました、区政会議においてもご協力をいただいたところではございますけれども、平成29年8月に策定いたしました「大阪市政改革プラン2.0（区政編）」というものがあまして、それに基づいた、大阪市の統一様式によるアンケートを実施する必要があるということで、ご協力いただくものがあります。一枚ものでお手元に両面で、標題は区政会議に関するアンケートと書いたものでございます。再度、お手数をおかけいたしますけれども、本日この後ご回答をいただきたいと存じます。お帰りの前に、お時間をとっていただくことになって、申し訳ありませんが何とぞよろしくお願ひします。あらためまして、委員の皆様には、2年間にわたり、いろいろとご協力いただきまして、本当にありがとうございました。事務局からは以上でございます。

○久木部会長      ありがとうございました。

閉会    20時31分